

1. 公園概要

くりはま花の国は、三浦半島を代表する花と緑の名所であり、ポピー・コスモス園やハーブ園ほか、季節ごとに異なる花々が楽しめ、自然に囲まれながらリラックスした時間を過ごすことができる公園です。「冒険ランド」や「くりはまkidsガーデン」など、家族で1日楽しめる施設が充実し、レストラン「ロスマリネス」では、東京湾や房総半島を一望しながら食事を楽しむことができます。年間を通じて様々なイベントも開催されており、冬にはイルミネーションが楽しめます。

名称	くりはま花の国
公園種別	緑地
所在地	横須賀市神明町1番1
開設年月日	1984年4月1日
公園面積	572,314㎡
現建築面積	約2,147.67㎡ (建蔽率0.4%)
設置使用料	土地:210円/㎡・月、工作物その他:650円/㎡・月
法令上の制限	第2種高度地区、準防火地域、屋外広告物規制(第2種許可)、宅地造成工事規制区域、土砂災害警戒区域(急傾斜)

公園へは、京急久里浜駅またはJR久里浜駅から徒歩約15分、自動車では横浜横須賀道路佐原I.C.から約4kmと、アクセスの良い立地です。東京湾フェリーの久里浜港からも約500mです。



出典:横須賀市ホームページ「三浦半島地域広域幹線道路整備促進期成同盟」令和5年度要望箇所図

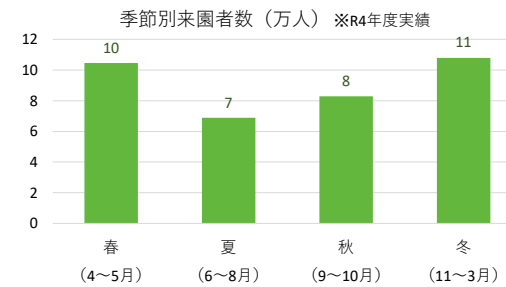
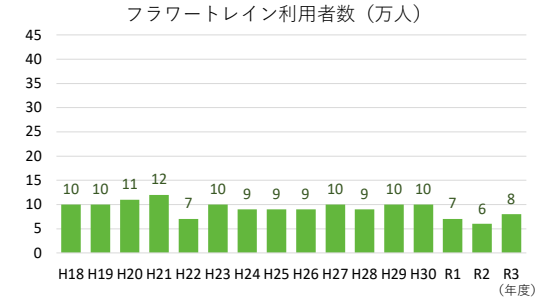
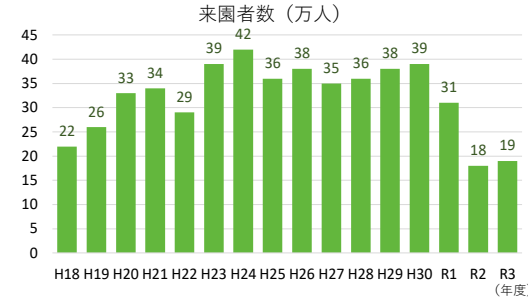
2. 園内の主な施設



3. 運営状況

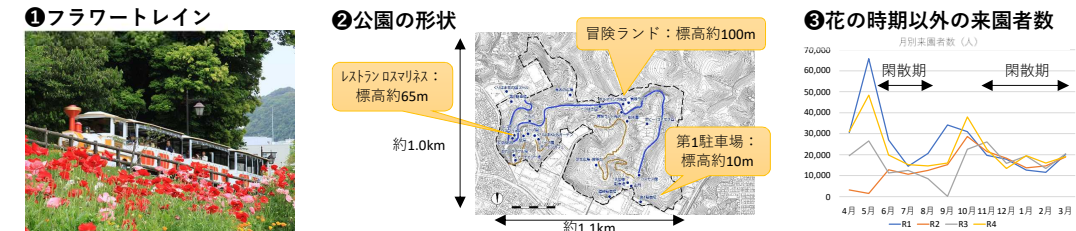
(1) 利用状況

くりはま花の国には、年間約40万人が来園されます。特に花の美しい春と秋に来園者が多く(年間の約7割)、神奈川県や東京都だけでなく、山梨県、静岡県、千葉県からも来園されています。また、ゴジラスベリ台等の遊具が充実しておりファミリー層に人気で、年間を通じ地域の方に愛されています(年間の市内利用者約6割)。園内は高低差が大きく(第1駐車場の標高約10m、冒険ランド約100m)、園内を循環する汽車型の「フラワートレイン」(有料)が、来園者の移動の足として人気を集めています。



(2) 現状の課題

- ①フラワートレインの老朽化**
導入から10年以上経過し、将来的に車両の交換が必要となります。現在、運行本数も少なく利便性が低下しています。今後、更新や代替移動手段の検討が必要です。
- ②立地と公園の形状**
駅から徒歩圏内に位置していますが、園内は広大で高低差のある敷地のため、公園入口と上部エリアをつなぐ新たな移動手段の検討が必要です。
- ③花の時期以外に来園者数減**
年間約40万人の来園者がいますが、花の時期以外では来園者が少なく、各主要エリアを結ぶアクセス性の向上による来園促進が必要です。
- ④既存施設の改修**
一部の既存施設は現行基準や法令に合わせた改修が必要であり、現在調査中です。また、開園後40年近く経ち、インフラ設備等の施設も老朽化しています。



4. 公園リニューアルに向けて

(1) リニューアルの目的

くりはま花の国は、現在年間約40万人の来園者を集めています。本市の顔となる公園として、南部の4大拠点に位置づけられ、適切に維持されるうえで、この地域資源・魅力の充実・強化を目指しています。また現在の花の時期以外にもさらなる来園者を呼び込むために、園内の回遊性向上や花の広場の活用など、公園の魅力を高めるリニューアルを行うことを検討しています。リニューアルにあたっては民間の活力を取り入れる予定です。

(2) 導入を想定する機能・施設

市ではリニューアルに向けて「現時点での方向性」として、次の3つを主要課題と設定をしており、より多くの人々が交流できる拠点を目指して、導入する機能や施設を次のように想定しています。なお、新たなアイデアや提案については積極的に求めおり、柔軟に対応したいと考えております。

リニューアルに向けた課題		
1. 来園者層の拡大	2. 回遊性の向上	3. みどりの活用

課題解決に必要な事項		
<ul style="list-style-type: none"> 広域から集客できる魅力の導入 四季折々の花の美しさや楽しみの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 園内移動を快適にする移動手段の導入 園内施設の整備・更新 周辺施設との連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとに公園の魅力を感じられる体験型施設の導入 自然資源を積極的に活用する施設の導入

導入機能・施設		
[集客機能] 大規模花畑、花の温室 [交流・レジャー機能] 体験施設、アスレチック施設 デイキャンプ施設、水遊び施設	[移動機能] 7ワートレイン更新または代替施設 [飲食機能] 飲食・物販施設 [休憩機能] 休憩施設、更衣・授乳室等 [交流・レジャー機能] 遊戯施設、情報発信施設	[集客機能] 四季の庭園 [交流・レジャー機能] 体験施設、展望施設、展示施設、アスレチック施設、情報発信施設 [防災機能] 再生エネルギー活用施設

※上記は確定したものではありません、サウンディング調査結果を踏まえ検討してまいります。

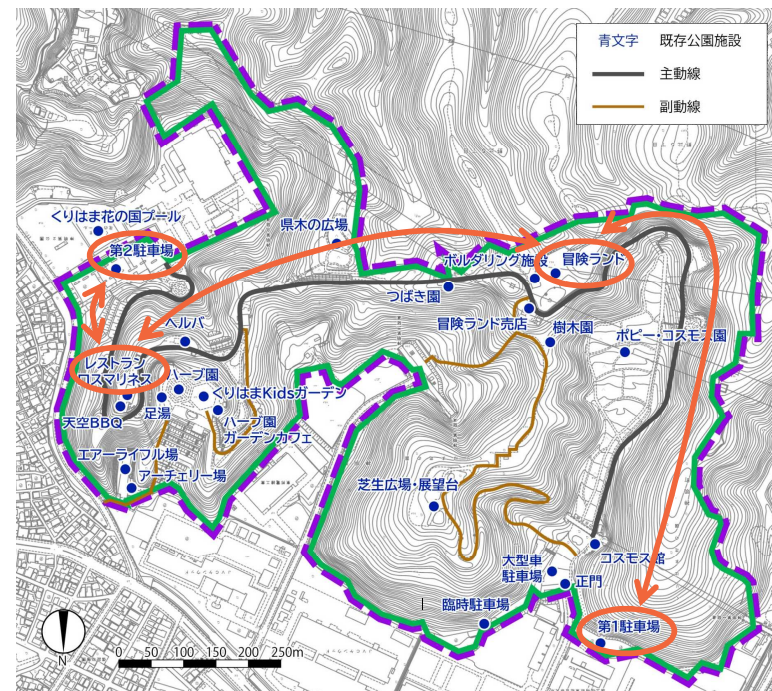
(3) 官民連携の考え方

都市公園の整備に係る官民連携の事業手法には次のようなものがあります。

PFI	Park-PFI	設置管理許可制度
<ul style="list-style-type: none"> 民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う手法 民間の資金、経営能力等を活用した効率的かつ効果的な社会資本の整備、低廉かつ良好なサービスの提供が主な目的 	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園の魅力と利便性の向上を図るため、公園施設の整備等を行う民間事業者を選定する制度 飲食店、売店等の公募対象公園施設の設置または管理と、その周辺の園路、広場等の特定公園施設の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定 	<ul style="list-style-type: none"> 公園管理者以外の者に対し、都市公園内における公園施設の設置、管理を許可できる制度 民間事業者が都市公園内に売店やレストラン等を設置し、管理できる根拠となる制度
 <p>事例：富士見公園(川崎市) 出典：川崎市HP</p>	 <p>事例：長井海の手公園(横須賀市) 出典：横須賀市HP</p>	 <p>事例：泉自然公園(千葉市) 出典：千葉市観光協会HP</p>

(4) 官民連携による導入施設イメージ (例)

官民連携手法により、課題解決につながる施設等を導入することを検討しています。以下に例示する導入施設のイメージを参考にいただき、民間のノウハウを活かした効果的な導入施設や配置等のアイデアを募集します。



- 課題1 来園者層の拡大**
 - 集客機能
 - 交流・レジャー機能
- 課題2 回遊性の向上**
 - 移動機能
 - 飲食機能
 - 休憩機能
 - 交流・レジャー機能
- 課題3 みどりの活用**
 - 集客機能
 - 防災機能
 - 交流・レジャー機能



5. 今後のスケジュール

2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)
官民連携可能性調査業務委託	事業スキーム、基本計画の検討等	次期指定管理者の選考	4月～次期指定管理期間開始
		リニューアル事業者の選考	リニューアル設計・工事